

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.133
2025. December

発行者 琉球病院事務部長
池間 忍

基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

令和7年度 琉球芸術祭

サービス向上委員会

当院では、入院やデイケアを利用されている患者さんの療養生活に彩を添える事を目的に毎年「りゅうきゅう芸術祭り」を開催しています。

今年も令和7年10月7日～8日までに、あしびな棟(リハビリ棟)にて開催いたしました。細かい作業を要する作品。大きな規模で複数人で協力した作品、日頃のニュースを切り取った作品、独創的な作品など様々な作品が多く出品されました。観覧車には自分の好みの作品に投票して頂き、賞を設けて芸術祭の痕に受賞者は表彰を行いました。

「院長賞」に「僕のともだち」(東Ⅰ病棟D様)。副院長賞「夢クラゲⅠ」(西Ⅰ病棟利用者様)の作品が選ばれました。二作品とも鮮やかな色合いが目につく作品でした。他にも色々な作品のおかげで「りゅうきゅう芸術祭り」に彩りを添える祭りになりました。参加して頂いた皆様、観覧し投票していただいた皆様、ありがとうございました。

今年もスタッフ一同、患者さんの療養生活に彩りを添えられる企画や取り組みを行って行きたいと思っております。



院長賞「僕のともだち」
(東Ⅰ病棟 D様)



副院長賞「夢クラゲⅠ」
(西Ⅰ病棟 利用者様)



院長



ふくじ やすひで
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。日本森田療法学会理事。日本病院・地域精神医学会理事。琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353床

- ・精神 151床
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間 8:30 ~ 17:15
(土・日・祝日・年末年始以外)
TEL 098-968-2133(代)
内線 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550
FAX 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年からクロザピン(CLZ)治療を開始し、登録症例数は延べ445例になりました。2025年10月のCLZ登録症例は1例でした。いずれも他の精神科病院に入院中の患者さんでした。CLZ導入前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動が消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ(<https://www.drs-net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/>)でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

東Ⅲ病棟のご紹介

東Ⅲ病棟師長 照屋 純二

当病棟はアルコール依存症病棟をはじめとする各種依存症に対して、専門的な治療と支援を行っています。医師、看護師、心理士、作業療法士など多職種によるチーム医療体制のもと安心して治療に専念できる環境を整えています。入院中は様々なプログラムを通して依存症の理解を深め、再発防止と社会復帰を目指しています。また、断酒会やアルコール依存症からの回復を目指したAA(アルコーリクス・アノニマス)や薬物依存症からの回復を目指したNA(ナルコティクス・アノニマス)などの自助グループの協力があり回復の力になっています。「依存症からの回復」は一人では難しく、家族や支援者の理解や協力が必要です。私たちは患者さんとご家族が共に回復への道を歩めるように支援しています。お酒をやめたくてもやめられない方、患者さんとの関わり方で悩んでいる家族や支援者の方々、ひとりで悩まずぜひ専門スタッフまでご相談下さい。

西Ⅰ病棟のご紹介

西Ⅰ病棟師長 仲村 智子

西Ⅰ病棟は、重症心身障がい児(者)の病棟で、知的障がいに加え運動機能障がいの程度が低い、いわゆる「動く重症心身障がい児(者)」と呼ばれる入所者が対象です。主な入院形態は契約入院となります。入院時から個別支援計画を立案し、医師・看護師・療養介護専門員・児童指導員・保育士・作業療法士・言語聴覚士・理学療法士などの多職種で支援を行っています。パニックや激しいこだわり・他害自傷行為など多種多様な行動障がいへの対応についても、カンファレンスを重ね統一したケアが実施できるよう対策を検討しています。現在は、A氏のトイレトレーニングを実施していますが、目標を高くせずスモールステップで、できたことを入所者と共に喜びながら、長期的視点で目標が達成できるよう支援を続けています。入所者と共に職員も経験を積み重ね、入所者が安心した生活がおくれるよう職員一同スキルの向上に努めていきます。

西Ⅰ・西Ⅱ病棟個別面談を開催致しました

主任児童指導員 宮川 奏子

令和6年4月の障がい福祉サービス等報酬改定では「利用者本人の意向の反映」をより重視する観点から、計画作成のための会議や個別面談等のあり方が見直され、利用者本人の参加が原則化されました。障がい福祉サービスでは長らく「本人中心の支援」が理念として掲げられていたものの、多くは施設側が中心となり利用者本人がいないところで支援方法が検討され、決定される現状であったと思います。西Ⅰ・Ⅱ病棟個別面談では今年度より原則すべての面談において本人参加のもと実施し、「本人中心とは」ということを改めて考える機会となりました。ただ、本人参加の意義の大きさを感じた一方で、課題や難しさも感じました。利用者が意志を表出することの難しさ(私たち支援者がどう汲み取るか、アセスメントできるか)や、利用者の負担(多くの支援者が参加する面談の空間)、支援者側の調整(利用者が参加するための仕組み作り)などです。「本人参加」が単なる形式的なものにならないよう、利用者本人が安心して参加できる方法(面談場所、予告や誘導方法など環境調整)や意志表出支援について、個々の利用者ごとに必要な工夫を今後考えていくと同時に、本人の負担が強い場合には「参加が難しい理由」を丁寧に記録し、代替手段を考える必要もあると考えます。また、本人が参加するための仕組み作り(業務調整)についても関係職種で丁寧に話しながら取り組んでいきたいと思っています。

こども心療科について

心理療法士 我喜屋 良行

琉球病院では、県から「こどもの心の診療ネットワーク事業」の委託を受け、県内でこどもの心の診療を行っている医療機関や関係機関とのネットワークの構築、人材育成、普及啓発などの取り組みを行っています。その一環として、離島支援や実地研修の受入れなども行っていますが、10月には宮古島での症例検討会や保護者懇談会などを行ってきました。医師だけでなく、たくさんの専門職の方ともケースについて意見交換をしたり、離島ならではの課題などをうかがうことができたり、保護者の方の困りなどを聞かせていただくことで、こちらとしてもたくさんの気づきをいただきました。今後も離島を含め、県内の医療機関が繋がれるネットワーク作りに貢献できればと考えています。